

授業科目 発達心理学

【担当教員名】 遠山 孝司		対象学年	1・2	対象学科	言語（1年）・社会（2年）
		開講時期	前期	必修選択	必修（言語）選択（社会）
		単位数	2	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	○	○	○	
【概要・一般目標：G10】 発達という概念はかつての「誕生から成体まで」から「生涯にわたる変化」へととらえ方が変化している。いずれの分野においても、人とかわかる職業においては、後者のような視点を持って理解・支援にあたることが重要である。そのためにはまず人間の「発達」という変化の一般的な傾向と個人差の存在を理解しておくことが必要となる。以上より本講義では、発達心理学の基礎的な内容を生涯発達の枠組みで把握することを目的とする。					
【学習目標・行動目標：SBO】 1. 「生涯発達」の視点で人間の「発達」をとらえる。 2. 人間の諸活動と諸能力の発達に関して理解を深める。 3. 人間の段階的な発達に関しての理解を得る。 4. 発達のスピードや方向における一般的な傾向からのずれとして発達障害（障碍）や適応障害を理解する。 5. 1～4. をふまえ、福祉分野における「発達支援」について、考察する。 6. 授業で学んだことを活かした自らの意見を持ち、それを表現する。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	発達とは？			1	講義と課題
2	遺伝と環境の影響			2	講義と課題
3	環境が発達に与える影響			2	講義と課題
4	段階的な発達			3	講義と課題
5	青年期とアイデンティティ			3	講義と課題
6	考え方・感じ方の発達			2	講義と課題
7	発達における個人差1（LD, ADHD など）			4	講義と課題
8	発達における個人差2（自閉症スペクトラムなど）			4	講義と課題
9	発達における個人差3（社会適応における個人差）			4	講義と課題
10	発達における個人差4（気分の個人差）			4	講義と課題
11	道徳性の発達			2	講義と課題
12	記憶と時間的展望の発達			2・3	講義と課題
13	言語の発達			2	講義と課題
14	発達の最後に			1・5	講義と課題
15	まとめ			1・5	講義と課題
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		なし			
参考書		講義内で適宜紹介する			
その他の資料		必要に応じて配布する。(オンライン配布の可能性あり)			
【評価方法】 出席状況、レポート、小テスト、議論への参加、授業への参加態度などを総合して評価する。			【履修上の留意点】 履修上の留意点は初回授業時に周知するので必ず参加すること。		